

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌誌上大会 選

入選 しらしらと闇にも匂う梅の花夢多き日の

校章なりき 福崎 孝子

入選 コロナ禍に籠るひとり身庭に来る小鳥こ

もごも窓越しに待つ 湯浅佐智子

入選 眼の奥に言いたきことを密ませて吾を待

ちし姉ビデオ電話に 棚野 久子

入選 アクリルの向こうにゆるり来る母はもう

涙目よ 手を添えたきに 小西 千恵

入選 真白なる梅描き終えて消しゴムの落款の

朱ふつと息はく 五島 秀子

入選 一人居の夜の淋しさ食べものでごまかし

ながらポリポリと食む 長尾 久子

入選 この峽に幾度迎ふる丑年か平穩であれ卒

寿を越ゆる 佐々木夫美

入選 病む我のこころはいつも雪の底「きつと

来てね」と春待ち侘びる 手塚都樹子

入選 一年に一度と言いて元旦に息子は笑顔で

酌してくれる 理和倭己子

入選 小間切れの時間はあれど儘ならぬ明日に

持ち越す今朝の庭掃除 矢野 道子

俳句

阿南市俳句連合会 選

家背負ひしわしわ行けよ蝸牛

海円し四国東端夏岬

苦しみを耐えて五輪の夏敵し

Tシャツに羽を休めて夏の蝶

家毎に凌霄咲ける在所かな

山清水引き込むホース鯉の髭

読み止しの新聞被り三尺寝

縦走路の真中に湧きし岩清水

ローズマリーの残り香匂う指の先

ひまわりや一人降ろして路線バス

神原 鹿山

森 伸

西條 佳恵

表原 清美

水口 明美

中富はるか

宮繁ただし

近藤ヤス子

山川 喜美

神野千鶴子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

新秋夜坐

夜雨一過殘暑収

半簾風動鬢邊流

涼宵縹帙消長夏

靜對青燈易感秋

增喜 泰典

夜雨一過 殘暑収まり

半簾風は動きて鬢辺に流る

涼宵 帙を縹き長夏を消す

靜かに青灯に対かえば秋に感じ易し

新秋夜坐

新涼一脈露晶晶

獨坐今宵秋有聲

皎月照窓輪未滿

草蟲不識憶君情

谷口田鶴子

新涼 一脈 露 晶晶

獨坐の今宵 秋に声有り

皎月窓を照らして 輪未だ満ちず

草虫は識らず 君を憶うの情を

川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

喜寿そこに思えば遠く来たもんだ

一片の遊び心で行く後期

土壁の家住み良さちよつと自慢です

ちよつとした言葉のあやが気に掛かる

コロナの世仕事もなくてただ遊ぶ

キャッシュレス時代の波に乗る勇氣

つかまつたちよつとちよつとで一時間

一般応募

余所行きに仕上げた顔もマスクかけ

日にち薬効いてきましたわだかまり

雨一夜心揺らして書く手紙

橋本 征介

鈴木レイ子

佐藤つたえ

渡邊 浪漫

多田紀久代

持木 寿栄

滝川 太郎

島尾美津子

武田 敏子

仁井 信子

蟬

田中 公

誰知十日一生心

忽逝黄昏小院深

飲露吸風人所仰

清音嘒嘒樹陰吟

誰か知らん 十日一生の心

忽ち黄昏を遡う 小院の深きに

露を飲み風を吸して 人仰ぐ所

清音嘒嘒として 樹陰に吟う



【シイタケ】

徳島県の生シイタケ生産量は全国1位。原木栽培に比べて短期間で収穫できる菌床ブロック栽培に、先駆けて取り組んだことで周年栽培が可能になり、生産が安定しました。農業を使用しない、消費者にも環境にも優しい作物です。